

2013年(平成25年)10月11日

経 済

太陽光発電と 農業の両立を

ルネサンス社長講演



農地向け太陽光発電システムを考案した農業法人「ルネサンスエコファーム」(山口県防府市)の中村鉄哉社長が10日、千葉市の幕張メッセで開か

れている第3回国際農業資材EXPOで講演し、導入事例を紹介した。写真。

同社のソーラーシェアリングシステムは、農地に高さ4.5メートル前後の架台を設け、隙間を空けて太陽光パネルを設置。光が地面に差し込むようにして、農業と発電の両立を

図っており、九電工(福岡市)などが販売・施工を担当している。

講演では、防府市内の

梅林(約2300平方メートル)に出力計250キロワットの太陽光パネルを設け、野菜やハーブを育てながら月約100万円の売電収入を

得ている事例を紹介。中村社長は「太陽光発電を取り入れた農業モデルの創造で農業所得を向上させ、耕作放棄地の活用やUターン、Iターンによる地域活性化のお手伝いをしたい」と話した。

(田中良治)